



FEALAC(アジア中南米協力フォーラム) 第4回外相会合



写真: 第3回外相会合リトリート(ブラジル)



FEALACとは

- 概要
- 加盟国（他の国際機関との比較）
- FEALACの活動

FEALAC(アジア中南米協力フォーラム)とは

(FEALAC: Forum for East Asia – Latin America Cooperation)

1999年に創設。アジアと中南米との交流と協力の強化を目的とするフォーラム。ゴーチョクソン首相(シンガポール)とフレイ大統領(チリ)の提唱で誕生。

●アジアと中南米のユニークな組み合わせ(アジア15、中南米18カ国)

- 世界で最もダイナミックに成長を遂げている両地域を繋ぐフォーラム。APECを補完。
- 中国、韓国、インドネシア、ブラジル、メキシコ、アルゼンチン等有力新興国を含む。
- 日本が唯一の主要先進国(G8メンバー国)

●経験の共有と相互利益の増大がFEALACの意義

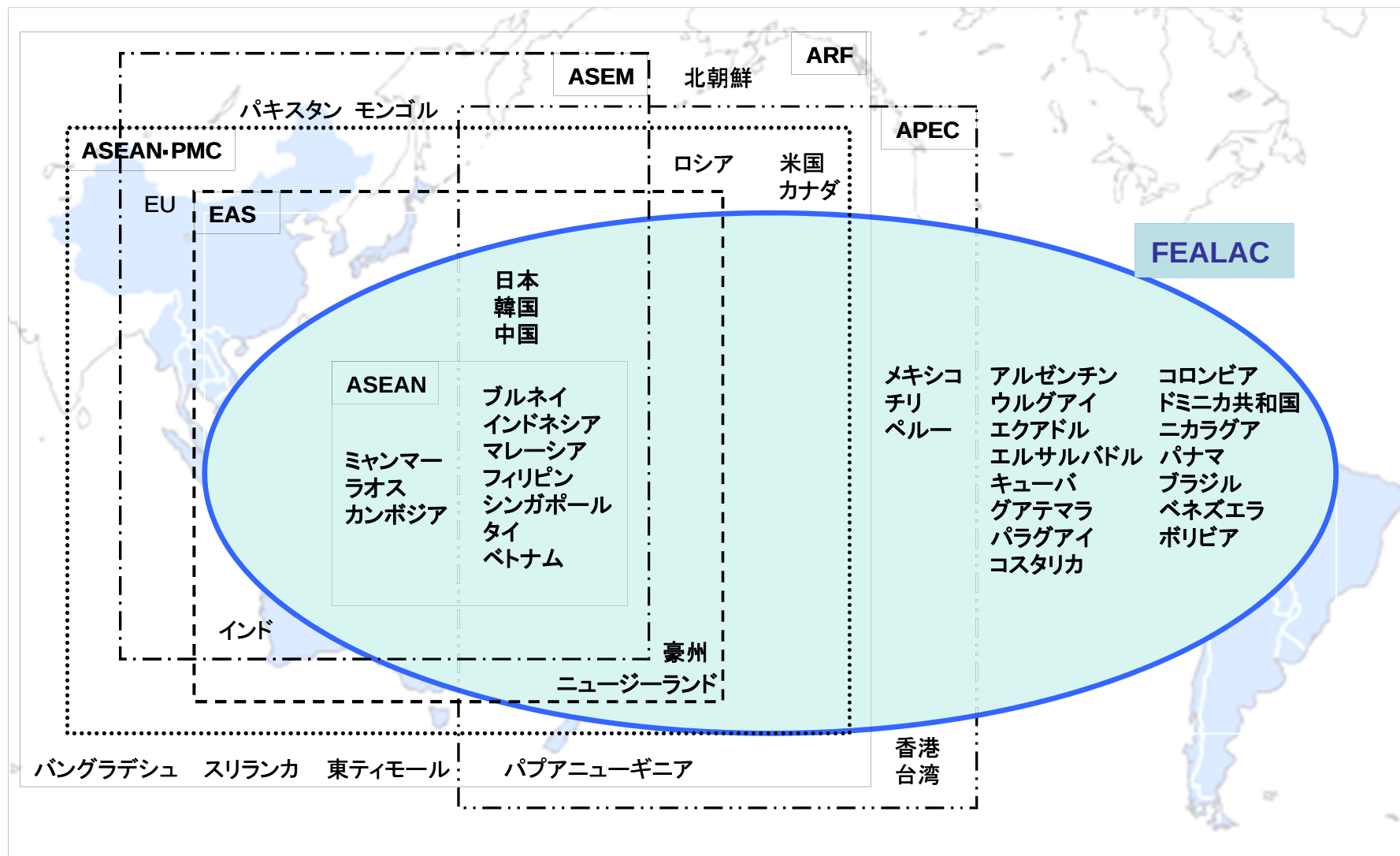
- 経験の共有～*両地域の経験や優れた点を相互に学び合い、自国の発展に役立てる*
- 相互利益の増大～*交流を通じて貿易、投資、人的交流を拡大し、相互の利益の増大を図る*
- 協力の促進～*気候変動、感染症、経済危機など世界の共通課題の解決のために共に協力する*

●政治・経済・文化を含む包括的な議題設定

- 外相会合を概ね2年に1度開催。
- 外相会合、高級事務レベル(SOM)会合の下に3つの作業部会:
①政治・文化・教育、②経済・社会、③科学技術が設置。



FEALACとその他のフォーラムの関係



FEALACの活動

外相会合で決定された方針に基づきSOM及び作業部会で議論を深めつつ、各メンバー国が自主的に様々なプロジェクトを実施している。

政治・文化・教育作業部会

- ◆報道関係者招待プログラム
- ◆若手議員フォーラム
- ◆テロ対策セミナー
- ◆大学学長会議
- ◆食品・伝統衣装フェスティバル等

経済・社会作業部会

- ◆FEALACウェブサイトの運営
- ◆中小企業支援セミナー
- ◆エコツーリズム会合
- ◆CDM関連セミナー
- ◆港湾・空港管理等セミナー等

科学技術作業部会

- ◆再生可能エネルギー専門家会合
- ◆防災シンポジウム
- ◆エル・ニーニョ現象情報交換ネットワーク等

経済社会作業部会議長国、アジア側調整国としてFEALACの活動をリード

若手リーダー・グループ訪日招聘

これまでに年1回、計8回実施、両地域から計232人を招待。テーマは、中小企業育成、クリーン開発メカニズム、環境ビジネス等。

セミナー・シンポジウムの開催

IDB、ADB、ECLAC等とも協力しつつ、時宜に応じたテーマで開催。最近では、2009年3月に「世界金融危機下の協力と交流強化を目指して」とのテーマで開催（東京）。

委託調査の実施

アジアと中南米の交流強化の可能性を探るための委託調査を実施。成果を作業部会等で紹介。テーマは、「両地域のIT産業の比較分析、貿易投資関係の強化」等。



第4回外相会合

(1月16, 17日 於:東京)

➤ 日本開催の狙い

➤ 日程

➤ 議題

外相会合日本開催の狙い

背景

- APECを日本で開催する年
- 気候変動COP15後初の大きな国際フォーラム
- 核軍縮・不拡散が重要課題となる年

外相会合の役割

- ① FEALACの活動を評価し今後の活動の指示を与える。
- ② その時々[○]の国際的課題について意見交換を行う。

狙い

- ◆ アジアと中南米の交流を日本がリード
- ◆ APECと連動させることによりシナジー効果を生む
- ◆ 日本独自の魅力と貢献力を両地域にアピール
 - ー 両地域の対する日本の貢献、技術力、資金力は、日本独自の魅力
- ◆ 国際社会の主要課題に関する日本の政策について各国の理解を得る
- ◆ FEALACの新たな10年の将来像を描く

第4回FEALAC外相会合日程

	1月16日(土)	1月17日(日)
午前	開会式 一般討議	国際金融機関との対話 一般討議 閉会セッション
昼	昼食会	記者会見 (調整国及び次期調整国のみ)
午後	自由討論(リトリート形式) ① 環境及び持続可能な発展に関する討議 ② 国際金融・経済危機及び社会的包摂に関する討議	
夜	レセプション	

※1月14日、15日 SOM会合を開催し、事前準備の最終調整を行う。

外相会合の議題

➤ 環境・持続可能な発展

環境と経済発展が両立した社会の実現を目指し、気候変動への取組、環境技術の共有、環境ビジネスの促進等について議論。

➤ 金融・経済危機の克服

アジア・中南米地域間で経済危機克服へ向けての経験と取組を共有し、地域間協力の可能性について議論。

➤ 社会的包摂

貧困・格差・疎外のない調和的な社会を目指してアジア・中南米地域間で可能な協力について議論。

➤ FEALACの将来の方向性

次の10年に向けたFEALACの方向性を議論。



参考資料

- FEALACの流れ(過去の会合)
- FEALAC枠組文書骨子
- 世界の中のFEALAC(データ)

FEALAC会合の流れ

高級事務レベル会合（1999年9月シンガポール）

第1回外相会合(2001年1月チリ)

- ・枠組文書を採択
 - ・政治、経済、文化、社会、教育、科学技術等広範な分野について自由に意見交換。
- ※我が国から荒木外務副大臣が出席

<枠組文書>

- 両地域間の相互理解、対話と協力の促進がフォーラムの目的
- 外相会合、高級事務レベル会合等の運営手続
- 各加盟国のプロジェクトの実施ルール(各加盟国の自己責任、任意実施)

第1回経済・社会WG(02年3月日本)

第1回政治・文化WG(02年5月シンガポール)

第1回教育・科学技術WG(02年6月豪州)

高級事務レベル会合（2002年11月コロンビア）

第2回経済・社会WG(03年3月日本)

第2回政治・文化WG(03年5月チリ)

第2回教育・科学技術WG(02年6月コスタリカ)

第2回外相会合(2004年1月フィリピン)

- ・マニラ行動計画を採択
 - ・国境を越える諸問題(テロ、感染症、環境、国際犯罪等)、経済関係の強化(貿易・投資 関係の促進やITの活用等)などを指摘、議論した。
- ※我が国から安倍副大臣(当時)が出席。

<マニラ行動計画>

- 両地域間の経済交流促進(貧困対策、中小企業支援、ビジネス・学術交流促進、ADB・IDBとの連携等)
- 将来に向けての安全の確保(災害、テロ、麻薬、感染症等への対策)
- 体制の強化(公式・非公式会合の充実、他の枠組との重複排除)

第3回経済・社会WG(04年11月アルゼンチン)

第3回政治・文化・教育WG(04年9月シンガポール)

第3回科学技術WG(04年3月コスタリカ)

高級事務レベル会合（2005年10月韓国）

第4回経済・社会WG(06年6月日本)

第4回政治・文化・教育WG(06年2月コロンビア)

第4回科学技術WG(06年6月タイ)

第3回外相会合(2007年8月ブラジル)

- ・ブラジルア宣言を採択
 - ・貿易・投資促進に係る協力強化方法、国際的な諸課題(気候変動問題、ミレニアム開発目標、国連改革等)の問題解決に向けた協力等について議論。
- ※麻生大臣(当時)が出席。企業家支援、IDB・ADBとの連携、国際的な諸課題(WTO、安保理改革、環境問題)に向けた協力強化等についてスピーチ。

<ブラジリア宣言>

- 気候変動、ミレニアム開発目標、WTO、国連改革等国際的な諸課題への対処における協力強化の必要性。
- 企業家支援、中小企業支援、ビジネス・学術交流推進、ADB・IDB、ECLAC・ESPAACとの連携強化をはじめ経済関係強化に向けた協力。
- 体制の強化(WGの重点分野を特定。SOMへの評価・報告制度。)

第5回経済・社会WG(07年10月韓国)

第5回政治・文化・教育WG(08年7月インドネシア)

第5回科学技術WG(09年2月パナマ)

高級事務レベル会合（2009年4月アルゼンチン）

第6回経済・社会WG(08年11月エクアドル)

第6回政治・文化・教育WG(09年3月コロンビア)

第6回科学技術WG(10年半ば予定NZ)

第4回外相会合（2010年1月 日本）

FEALAC枠組文書(2001年採択)

第1回外相会合で採択された枠組文書は、フォーラムの目的、枠組等を定める基本文書

意義

1. 世界の相互依存は無視できない現実。国際的な結束と地域間の連携が重要。
2. 東アジア・中南米両地域は共通の課題を有し経済的にはともに活発かつ補完的である。本フォーラムは共通の課題に取り組み、新たな協力の方途を探る上で有益。

目的

3. フォーラムの目的は、両地域のより密接な協力、実りある関係を築くため相互理解を深め、対話と協力を促進することにある。

目標

4. フォーラムの目標は、(1)相互理解、信頼関係、政治的対話、友好的協力を促進すること、(2)様々な分野での協力の可能性を引き出すこと(3)重要な国際的政治経済問題についての共通理解を拡大すること。

原則

5. フォーラムの原則は、未来志向であること。また、運営は自発性に基つき、柔軟性を有するものとする。

参加

6. フォーラムは主権国家により構成。その他の国及び国際機関は、メンバー国のコンセンサスにより特定の活動に参加可能。

モダリティ

7. 外相会合は原則2年に1回開催。経済閣僚等の参加、首脳会合については、今後議論される。
8. 外相会合の議題はコンセンサスにより決定。SOM会合は少なくとも年1回開催。
9. 両地域より1ヶ国ずつ調整国をコンセンサスにより指名。また、次期調整国を副調整国とする。
10. 外相会合の場所は両地域で交互に開催される。

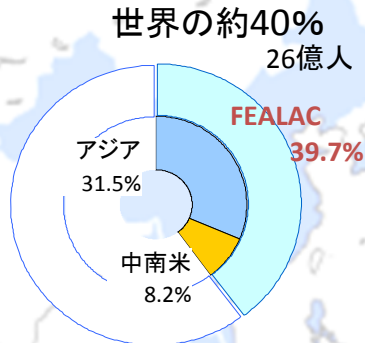
プロジェクト

11. メンバー国は、一国又は複数国で両地域間の相互の関心を高め、理解を深めるためのプロジェクトを実施することが奨励される。
12. プロジェクトの資金は自ら確保し自発的に実施する。

世界の中のFEALAC

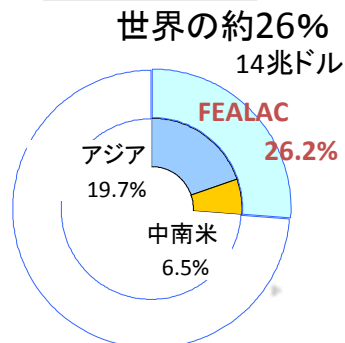
☆FEALACは世界の人口及び貿易の約4割、GDPの約3割を占める有望な経済圏。

人口 (2007年)

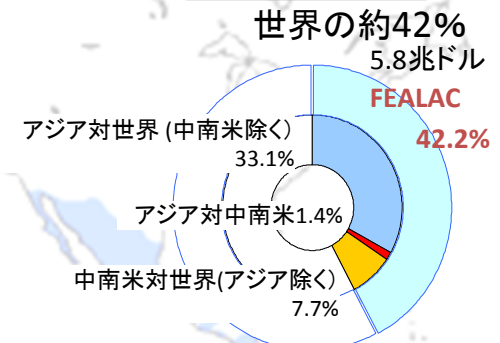


(世銀World Development Indicators 2009)

GDP (2007年)



貿易額 (2007年)

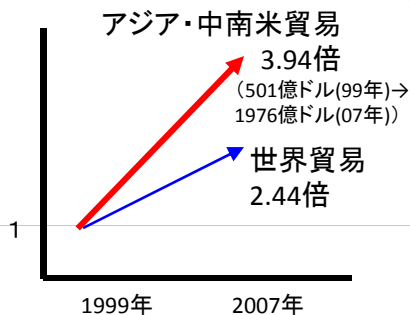


(IMF Direction of Trade Statistics April 2009)

☆アジア・中南米間の貿易は、FEALAC発足後の10年間で約4倍に増加。
しかし、双方にとっての貿易比率はまだ小さく、今後の拡大の余地が大きい。

貿易額の伸び

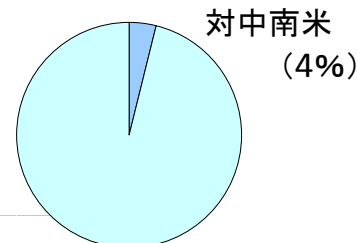
アジア中南米間の貿易は発足後4倍



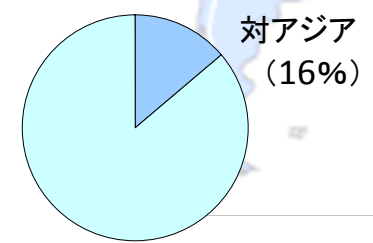
アジア中南米間の貿易

(貿易額:1976億ドル(2007年))

アジア貿易総額:約4.8兆ドル



中南米の貿易総額:約1.3兆ドル



(IMF Direction of Trade Statistics April 2009)